

事業所名

児童発達支援・放課後等デイサービス
けいっくなくテラス福岡見

支援プログラム

作成日

2026年

5月

1日

法人（事業所）理念	医療と福祉の専門的な視点からお子様とご家族の「こころの拠り所」となり、子どもたちが学校生活や社会集団の中で自信を持ち、自分らしく輝ける未来へと「つなぐ」支援を行います。		
支援方針	長時間のお預かり（ケア）を目的とするのではなく、「プログラム特化型」の療育を提供します。公認心理師等による専門的なアセスメントに基づき、目に見える課題の「原因」へアプローチします。 大型モニター（MAXHUB）を用いた視覚支援や小集団での活動（SST）を通じて、「わかった！」「できた！」「できた！」という成功体験を積み重ね、自己肯定感を高めることで「二次障害の予防」と「就学準備へのスムーズな適応」及び「学校生活へのスムーズな適応」を目指します。		
営業時間	11時	0分	18時
	0分	0分	0分
	送迎実施の有無		
	あり なし		
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	生活リズムと自己管理の形成： 限られた時間の中で活動に見通しを持ち（視覚的なスケジュール提示）、始まりと終わりの切り替えをスムーズに行う練習をします。 心身のコンディション理解： 自分の疲れやストレスに気づき、適切に休息をとる、または支援者にSOSを出す力を育みます。	
	運動・感覚	視空間認知・ビジョントレーニング： インタラクティブモニターを活用し、ゲーム感覚で眼球運動や反射神経を促し、黒板の板書や球技など、学校生活に必要な「見る力」の土台をつくります。 微細運動・目と手の協応： バランス積み木等の教具を用い、適切な力加減のコントロールや手先の器用さを養い、学習（書字や工作）への苦手意識を軽減します。	
	認知・行動	ワーキングメモリと集中力の向上： カードゲームや知育玩具を用い、情報を一時的に記憶し処理する力や、ひとつの課題に集中して取り組む力を小集団の中で楽しみながら育みます。 見通しを持った行動： 「次は何をするか」を明確に提示し、不安なく活動に参加できる認知的なサポートを行います。	
	言語 コミュニケーション	安心できる自己表現の場づくり： 「間違えても大丈夫」という絶対的な安心感の中で、自分の意見や気持ちを言葉にして相手に伝える経験を積みみます。 視覚的コミュニケーションの活用： 言葉だけでは理解が難しい場面では、モニター等の視覚情報を併用し、双方向の円滑なコミュニケーションを促します。	
	人間関係 社会性	小集団でのソーシャルスキルトレーニング（SST）： ルールのある遊びを通じて、「順番を待つ」「負けたときの悔しさをコントロールする」「お友達を応援する」といった、学校の集団生活で必須となる社会性を実践的に学びます。 他者との適切な距離感の学習： 集団プログラムの中で、お互いを尊重し合える関係を築きます。	
家族支援	ポジティブなフィードバック： 日々の「Goodエピソード」を積極的に共有し、保護者様とお子様の成長の喜びを分かち合います。 専門家による心理的サポート： 公認心理師による発達相談や保護者面談を実施し、ご家庭での関わり方や就学に関する不安に寄り添い、孤立を防ぎます。	移行支援	就学準備・学校適応へのブリッジング： 小学校の学習環境に準拠した着席の習慣づけや、集団指示を理解して動く練習を行い、保育園・幼稚園から小学校、または進級時の環境変化へスムーズに移行できるようサポートします。
地域支援・地域連携	医療機関との連携： 運営母体である医療法人クリニックとの密接な連携を図り、医学的・心理的な見地からの助言を療育に活かします。 関係機関との情報共有： 必要に応じて、お子様の在籍する学校や幼稚園、保育所、相談支援事業所と連携し、地域全体で一貫した支援体制を構築します。	職員の質の向上	専門性の追求： 公認心理師を中心とした定期的なケース会議（終礼等での日々の振り返りを含む）を実施し、スタッフ間で支援方針の統一を図ります。 研修への参加： 軽度・発達ボーダー層への理解を深めるため、外部研修や内部勉強会を継続的に実施します。
主な行事等	目標を持ったプログラムと季節の活動： 長時間の外出を伴う「お預かり型」の行事ではなく、日々の療育プログラムの延長として、季節を感じる創作活動や、小集団での発表会などを実施します。 長期休みの特別プログラム（保護者参観発表会）： 特に夏季・冬季・春季の長期休みにおいては、保護者参観発表会に向けた準備や練習をプログラムに組み込みます。ひとつの目標に向かってお友達と協力する経験（SST）や、人前で自分の役割をやり遂げる経験を通じて、子どもたちの大きな達成感と自信を育みます。		